

養護実習の学びを探究する～デジタルポスター形式での発信～

◎倉澤 順子（東京学芸大学附属国際中等教育学校）

○荒川 雅子（東京学芸大学芸術・スポーツ科学系養護
教育講座）

佐藤 牧子（東京学芸大学附属小金井小学校）

中谷千恵子（東京学芸大学附属小金井中学校）

田岡 朋子（東京学芸大学附属竹早小学校）

塚越 潤（東京学芸大学附属竹早中学校）

八代 りり（東京学芸大学附属大泉小学校）

桑野 桜（東京学芸大学附属世田谷小学校）

代表者連絡先：sakai.j@u-gakugei.ac.jp

【キーワード】養護実習，デジタルポスター

1 はじめに

国立大学は全国 56 大学に幼稚園 48 園、認定こども園 1 園、小学校 67 校、中学校 68 校、高等学校 15 校、義務教育学校 5 校、中等教育学校 4 校、特別支援学校 45 校、計 253 校園の附属学校を設置しており、約 8.4 万人の子どもたちが通っている（令和 6 年 4 月現在）。附属学校の使命や役割には、実験的で先導的な学校教育への取り組み、教育実習の実施、大学や学部における教育に関する研究への協力などがある。特に教育実習では、毎年各校で異なるが、100 名前後の学生が学校現場で学んでいる。養護教諭を目指す学生も実習に参加している。

2 本プロジェクトの目的

養護教諭は学校において保健教育を行う際、ICT を含め、掲示板や保健だよりなど様々なツールを活用することが多い。そのため、情報を整理し、発信するスキルを身につけることが求められる。養護実習では、実習生が教育実習の目的に沿って、各実習校で設定した自己課題に取り組みながら学びを深める。その中で、今後、習得すべきスキルを自覚し、習熟を目指すことが重要である。そこで、実習生が実習の中で探究した内容や学びを「デジタル養護実習ポスター」としてまとめることで、実習の学びを深化させるとともに、情報発信のスキルを獲得し、学校内外へ発信することを目的とした。

3 本プロジェクトの実施

本実践は 2023 年度から東京学芸大学附属学校園の学校保健部会において実践研究として開始した。実習期間中に、指導養護教諭がデジタル養護実習ポスターの作成方法などを指導し、実習生は期間内に作成を試みた。完成したポスターは大学内で行われる実習報告会で発表し、その後、掲示することで実習の成果として活用するだけでなく、後輩の養護実習のイメージ作りにも役立てた。

【実施スケジュール】

5 月：実習事前指導（大学）にてデジタル養護実習ポスターの概要を説明

6月：各実習校でオリエンテーションを実施し、指導養護教諭が詳細を説明

7～8月：資料収集を行い、大まかな構想を検討

9月：実習中に必要な素材を収集し、ポスターの構成を考案

10月：実習発表会に向けてポスターを完成させ、実習指導教員と共有し、報告会にて掲示

11月：外部配信（Padlet 掲示板ツール使用）開始（添付資料参照）、
アンケート実施

2年目以降も同スケジュールで実施した。

2024年11月 日本学校保健学会（岡山）で発表

2025年6月 東山書房『健康教室』6月号 実践ファイル掲載

【方法（ガイドライン）】

1. 完成サイズはA3、掲示の都合上、横置きとする。
2. デザインや内容の形式は特に指定しない。
3. 実習校名・実習者名・実習期間を明記する（配置の指定なし）。
 4. 写真を使用する場合は、実習指導教員の許可を得て撮影し、児童生徒の顔や氏名が特定されないよう配慮する。
 5. デジタルポスター作成に際し、手書きイラスト、タブレット、PC、カラーコピー、PDF化、スキャナーなどが必要な場合は指導教員に相談する。
6. 完成したポスターは、記名入り（学内用）と記名なし（外部配信用）の2種類をPDF形式で提出する。
7. 完成後、一定期間大学内に掲示し、Padletにて外部配信を行う。
8. 実習生および1・2・4年生と指導教諭にアンケートを実施する。

4 課題と成果

1年目を踏まえ、ガイドラインの見直しとPadlet活用方法の検討を行った。本大学以外に他大学からの養護実習を受け入れている学校でも、デジタルポスターを実習の学びとして作成し、各大学へその成果とともに報告を行った。作成したデジタル養護実習ポスターは、学内の実習報告会や大学構内での掲示に活用され、実習成果の可視化やイメージ作りに役立った。アンケート調査や聞き取りを通じて、ポスターの有効性や影響を分析し、Padletを活用して情報を共有した。

アンケート結果から、ポスターを作成したことで実習の学びの目標は〈具体的に変わった〉〈課題が明確になった〉〈学びたいことが増えた〉など、多岐にわたる実習内容をまとめる過程で項目ごとに整理したり、実習中の段階からどの観点で考えるかを意識したりするなど、実習生の学びに変化が見られた。また、振り返りの中で自己の課題を見出すことにもつながったと答えている学生もいた。さらには下級生が実習に活かせるように、実習に行ったからこそわかる、知っておいた方がよい情報など、他者を意識した内容にすることができていた。実習指導にあたった養護教諭からは実習の指導助言をする際に、イメージ作りや学びの目標の具体化、課題の明確化に役立ち、デジタル化することで実習生指導の情報共有と各校の実態に応じた指導を行うことができたと回答していた。またポスターを閲覧した下級生からは〈実習の流れや1日の流れが具体的に書かれており、1年の私でも実習についてイメージすることがで

き不安が少し減り楽しみになった〉〈実習の具体的なスケジュールや業務を知ることができた点。自分が実際に実習に赴く際にとっても参考になると思った〉などがあった。つまりポスター作成を通じて学びの目標が具体化し、課題の明確化や学びたいことにつながったり、実習中に学ぶ視点を整理し、自己の課題を発見する機会となった。

実習の学びを1枚のポスターにまとめデジタル化したことで、実習生は情報発信スキルを向上させ、指導側も情報共有がしやすくなり、各校の実態に応じた指導が可能となった。

本研究の取り組みは、学校種を問わず応用でき、実習の準備やイメージ作りを支援する手段として有効であり、デジタル化することで、学内外へ養護実習の情報発信手段として活用することができた。ポートフォリオは教育現場において個人能力の総合的な学習評価方法の一つとされ、学校教育だけでなく自己啓発など、様々な教育分野で取り入れられている。本実践でも、自分なりに探究し、形にとらわれないポートフォリオを参考にした保健だよりと保健の掲示板を融合させたデジタル養護実習ポスターを作成することで、養護実習の成果を振り返り、自分自身の記録として残すことができた。また実習生同士の学びの共有及び後輩への実習のイメージ作りにつながる事が明らかになった。本実践では、ポートフォリオの要素を取り入れたデジタル養護実習ポスターを作成することで、実習の振り返りや記録の整理が可能となった。実習生同士の学びの共有や、後輩への実習イメージの提供にも寄与した。実習のまとめを学生自ら探究し、様々な視点をもって実習することで得られた内容を共有でき、また実習の成果物として完成させることで、学生の学びを確認し、評価につなげることができた。またお互いのポスターを見て、実習の共有や学びあいを持てたことも大きな成果といえよう。外部配信することで、本学部養護実習生だけでなく、他大学から受け入れた実習生にも、同じ方法で参加してもらうことで学内にとらわれない情報共有の幅が広がり、お互いに刺激を受け、学びの広がりを実感でき、他大学の先生から「発表資料が構造化されて視認性が上がる」と評価をいただいた。

デジタル養護実習ポスター形式でのまとめ方を探究することで、自分なりのゴールを設定し、学び得た内容を視覚化・デジタル化し、情報発信のスキルを身につける一助になることが期待できる。実習中は日々の記録や課題の取り組みなどもあり、十分な時間を確保することが難しい状況にある。各学校の指導養護教諭ともデジタルポスターの取り組みについて月に1度情報共有する時間を設け、ミーティングを重ねながら進めた。実習の受け入れ指導については、統一した指導が行えるよう養護教諭同士のつながりが大切になる。課題としては実習生には事前に全体への情報共有する機会を設ける必要があることや分析の際、実習生の人数が少ないため調査データ数に限りがあること、指導教諭側と学生側のスキルアップが必要であることがあげられる。今後も養護実習を受け入れる附属学校ではこの取り組みは継続していく。

養護教諭養成課程の拡充により、大学附属に限らず、公立・私立を問わず養護実習生を受け入れる学校が増加している。実習の学びを1枚のポスターにまとめデジタル化する取り組みは、他の学校の実習内容を知る機会ともなり、公立校や私立校にも活用が期待される。

添付資料

①Padlet（パドレット）の画面

学校ごとにポスターが一覧で見ることができる

いいねやコメントも入れられるため双方向のやり取りが可能。

（写真は掲載の都合上コメント削除）

②外部配信用 Padlet QRコード

外部向けに個人名を入れずに作成



PW: 3ZMobo52

④ポスター掲示写真



2023 年



2024 年

大学構内の掲示板にポスターを掲示。授業に行く学生が通る展示。（他大学の実習生作成ポスターも掲示）他大学にはそれぞれPadlet のリンクをご案内